

平成 30 年度  
2014 計画点検等ワーキンググループ（第 4 回）議事概要

1. 日時 平成 31 年 2 月 27 日（水）14：00～16：30
2. 場所 環境省近畿地方環境事務所 大会議室
3. 参加者

【委員】

遠藤 学	上北山村地域振興課	課長
佐久間 大輔	大阪市立自然史博物館	学芸課長代理
松井 淳	奈良教育大学教育学部	教授
村上 興正	元京都大学理学研究科	講師
横田 岳人	龍谷大学理工学部	准教授

【オブザーバー】

(株) 応用生物	草加 速太	主任研究員
----------	-------	-------

【事務局】

環境省近畿地方環境事務所	榎本 和久	国立公園課長
	竹下 守昭	自然再生企画官
	戸田 博史	野生生物課 野生鳥獣感染対策専門官
	関 貴史	吉野自然保護官事務所 自然保護官
(株) 環境総合テクノス	樋口 高志	環境部 マネジャー
	樋口 香代	環境部 リーダー
(一財) 自然環境研究センター	千葉 かおり	主席研究員
	中田 靖彦	研究員

4. 議事

- (1) 大台ヶ原自然再生推進計画 2014（第 2 次）案について
- (2) 2014 計画（第 1 次：2014－2018）において実施したモニタリングの点検結果のまとめについて

## 5. 概要：

### (1) 大台ヶ原自然再生推進計画 2014（第2次）案について

- ・ p3 目指すべき大台ヶ原の森林の状況図の「植生タイプ」については一般向けに説明をいれておく。
- ・ p9 持続可能な利用の推進の取組には「登録ガイド講習会」と「登録ガイドスキルアップ講習会」の両方を入れておく。
- ・ p9、4. (2)「大台ヶ原全体の利用環境を適正に保全する」という表現は「大台ヶ原全体の自然環境を適正に保全する」とする。
- ・ p13 実施スケジュールに示されている「坪刈り」は維持管理の1つとして扱い、「稚樹保護柵の維持管理」とした方がよい。
- ・ 取組の小項目が⇒で示されていると、同じことをずっと継続するよう見えるので、将来的には点線で消えていくような表現にする。

(2) 2014 計画（第1次：2014－2018）において実施したモニタリングの点検結果のまとめについて  
2014 計画の点検結果について、一般を対象に公開することを想定し、成果の出たものについて取りまとめた。

#### 【森林生態系の保全・再生に対する取組の点検（評価）】

- ・ p1「森林更新の場の保全・創出が進み始めている」ではなく、「森林更新が進み始めている」とする。また、「実生の定着する場の保全はできておらず」ではなく、「実生の定着する場の創出はできておらず」とする。
- ・ p3 実生の定着環境としているが、何の実生を対象としているのか示しておく。大規模防鹿柵における「下層植生」についても同じである。

#### 【ニホンジカ個体群の管理に対する取組の点検（評価）】

- ・ 生息密度指標の使い方については、全国的に~~目標頭数として~~は、糞粒法による場合は「生息密度」という表現が使われているので、それに合わせた方がよい。
- ・ REM 法については、暫定的な値であるという説明書きを加えて「生息密度指標」とする。

#### 【生物多様性の保全・再生に対する取組の点検（評価）】

- ・ 冒頭のまとめは「取組の結果、自然再生が進んでいる」という表現の方がよい。
- ・ p3 の地表生小型哺乳類調査結果のヤチネズミ、ミズラモグラについては、一般向けに、親近感をもたせるためにも生態生体写真を載せておく方がよい。
- ・ p4 の訪花昆虫については、回復してきているが、他地域に比べるとまだハチ目が少ない、という説明が必要である。
- ・ p5 のガ類の食草別の確認種数の割合の変化を示した円グラフについては、実際には確認種数が減っていても割合比が増えているものもあるため、誤解をうける。確認種数の変化を棒グラフで示した方がよい。
- ・ ~~p5 の最後の3行「ガ類は種によって食餌となる寄主植物（食草）選択の幅が決まっております...」という部分をイントロとして、2段目の始めにもっていく。その後、大台ヶ原での植生の変化との関係を説明した方がよい。その内容として調査結果の比較を示す方がよい。~~

- ・ 【自然再生事業全体の成果を評価するためのモニタリングに対する取組の点検（評価）】
- ・ メッシュ調査結果については、分布図だけではなく、被度ごとの頻度分布の変化も示しておく。
- ・ ここで示されている調査結果は「防鹿柵外のものである」という断り書きを文章にも入れてお

く。

【持続可能な利用の推進に対する点検（評価）】

- ・ 上北山村を含めた地元が実施している取組についても紹介しておく。
- ・ 利用部門のまとめについては、利用の量の適正化の部分など、抜けている項目がある。実際にやっている取組については、写真を使うなどして、内容を充実させる。
- ・ 利用調整地区の立入数の変化のグラフなどを入れて、制度が適正に管理されていることを示しておく。
- ・ 西大台利用調整地区の利用者は近年リピーターが多くなっていることも示しておく。

(3) その他

- ・ 「登録ガイド講習会」等で使用しているテキストの内容について、自然再生の取組の部分は、今回点検した結果を踏まえて修正する。